

|          |               |                      |  |
|----------|---------------|----------------------|--|
| a 学校教育目標 | 自ら伸びる とともに伸びる | b 経営理念<br>ミッション・ビジョン | 【ミッション】(自校の使命) 知・徳・体の基礎・基本が身に付き、地域に愛着と誇りをもった児童の育成<br>【ビジョン】(自校の将来像) 保幼・小・中の連携を進め、小1プロブレムや中1ギャップのない、子どもが通いたい学校、保護者が通わせたい学校づくり |
|----------|---------------|----------------------|--|

| 評価計画     |   |                                     |                                   | 自己評価         |       |       |   |  | 改善方針   | 学校関係者評価  |   |   |   |  |  |
|----------|---|-------------------------------------|-----------------------------------|--------------|-------|-------|---|--|--|--|---|---|---|--|--|
| c 中期経営目標 | d 短期経営目標  | e 目標達成のための方策<br>(こんなことをして達成します)     | f 評価項目・指標<br>(効果を見とる目安)           | g 目標値        | 10月   | 2月    | i 達成度   | j 評価   | k 結果と課題の分析   | 改善方針   | 評価  |   |   | コメント   |  |
|          |   |                                     |                                   |              | h 達成値 | h 達成値 |   |  |  |  | イ   | ロ | ハ |  |  |
| 信頼される学校  | ○安心・安全な学校にする。<br>【肯定的評価95%】—【肯定的評価90%】              | 安全点検やパトロールを実施する。                    | 保護者・教職員のアンケート                     | 90%          | 85    | 99    | 110%  | A  | ○生徒指導部が下校時の定期パトロールを実施した。また各職員が校外に向いた時をたらえて校区の様子の情報交換を行うことができた。   | パトロール結果の情報を保護者にも開示し、情報の共有化をはかる。  | 4   |   |   | 地域の中で学校の評価がとても良い。地域住民として保護者としても嬉しい意見を聞くことが多い。                                      |  |
|          | ◎問題行動に迅速に対応する。<br>【肯定的評価95%】—【肯定的評価90%】             | 欠席児童や問題行動はその日の内に連絡する。               |                                   | 90%          | 100   | 99    | 110%  | A  | ○電話や家庭訪問を通して保護者と連携をとり、迅速に対応することができた。   | これまでの取組を継続していく。  | 4   |   |   |  |  |
|          | ◎保幼・小・中の連携を深める。<br>【肯定的評価95%】—【肯定的評価90%】            | 実態を把握し、計画を作成するため、連携会議・テレビ会議を定例化する。  |                                   | 90%          | 100   | 100   | 111%  | A  | ○運営定(和木愛愛)に明記したりテレビ会議の担当を示すみくろのみを机上に置いたりして意識化することにより、会議計画に基づいて実施できた。   | これまでの取組を継続していく。  | 4   |   |   |  |  |
| 確かな学力    | 標準学力調査・全国学力テスト・基礎基本定着状況調査の得点(全学年平均を10ポイント超える)       | 低中学年:宿題をやりきらせる。<br>高学年:自学の習慣を身につける。 | 自学の計画達成率                          | 90%          | 93    | 89    | 99%   | B  | ○自学計画表、フォロープリントの活用により、9割近くの児童に自学の習慣がついた。中学年以上は、自学ノート指導にも力を入れ、自分に必要なことを考えて学習できる児童も増えた。<br>●依然学習習慣ができていない児童がおり、個別指導が必要である。 | 検定テスト週間だけでなく、日常的に児童の家庭学習の実態を把握し、個にあった学習方法をアドバイスする。                                 | 4   |   |   | ・今後も、しっかり学力を付けてほしい。<br><br>・読書に関してはとても素晴らしいと思う。                                    |  |
|          |   | 検定テストを作成する。<br>フォローアッププリントを作成する。    | 前期1回<br>後期1回                      | 2回           | 100   | 100   | 100%  | A  | ○検定テストを目標に、意欲的に学習する児童が増えた。また、教師が児童の学習定着状況を把握するのに有効であった。  | 個の課題をしっかりと分析し、個に応じた補習を行う。  | 4   |   |   |  |  |
|          |   | 児童教師意識調査「わかる授業」の児童・教師アンケート          | 80%                               | 96           | 99    | 124%  | A   | ○シナリオを作り練りあいの場面の充実を図ったこと、ことばの目標を毎時間決め、年間を通して説明しあう活動に力を入れたことで、98%の児童が算数の授業がよくわかると答えた。 | すべての児童がわかる授業をめざし、わからない児童への手立ての充実を図る。   | 4  |   |   |   |  |  |
|          | 思考を深める算数科の授業を行う。<br>(授業スタイルの統一を図る。- 練り合い場面のシナリオづくり) | 検定テストの結果<br>(学年の目標点以上)              | 85点                               | 88           | 89    | 105%  | A   | ○前回より範囲が広がし、難易度も上がったが、得点率が上がった。これは、授業と自学の充実の成果である。                                   | 解答や得点率の低い分野の分析を行い、課題克服のための指導を行う。また、職員が課題を共有し、来年度の指導に生かす。   | 4  |   |   |   |  |  |
|          | ○言葉の力を身に付けさせる。                                      | 各学年で読書の目標(時間、冊数等)を決めて取り組む。          | 児童・教職員のアンケート                      | 80%          | 96    | 94    | 118%  | A  | ○朝読書、読み聞かせ、図書委員による表彰など、様々な読書に関する取組により、読書への関心は高まっている。<br>●家族週間には家庭読書をしているが、家族週間が終わると、家庭読書できない児童が多い。                       | 目標設定するだけでなく、達成状況を把握し、肯定的評価や励ましの声をかける必要がある。また、本に自ら触れる機会が少ない児童には、ブックトークなどを通し、本を紹介する。 | 4   |   |   |  |  |
|          | 各学年でことばの目標(美しい日本語の暗唱等)を決め、指導方法を工夫する。                | 80%                                 | 97                                | 91           | 114%  | A     | ○●前期は研究会まで目標をもち、意欲的に取り組んだ児童が多かったが、後期に入り、目標が曖昧になり、自主的にチャレンジする児童が減った。 | 内容の精選、目標の設定方法など、再考する必要がある。   | 4  |  |   |   |   |  |  |
| 豊かな心     | 決まりを守る力を育む。   | ○靴やトイレのスリッパを揃えることができる。              | クラスの係りや委員会活動等で目標を決めて取り組み、認める場をもつ。 | 90%          | 76    | 75    | 83%   | B  | ○学級ではほぼ定着してきている。<br>●家庭ではできていない児童が多い。  | 学級ではほぼ定着してきているので、児童の様子を学級通信等で保護者に伝えたい。児童には家でも行うように指導していく。                          | 3   | 1 |   | ・地域で「学校のトイレがとても綺麗だ」と評判である。<br>・低学年の方が、言葉づかいが丁寧である。<br>・日常の躰については、家庭で保護者も頑張ってもらいたい。 |  |
|          | ○誰にでも進んで元気な挨拶ができる。                                  | クラスの係りや委員会活動等で目標を決めて取り組み、認める場をもつ。   | 保護者・児童・教職員のアンケート                  | 90%          | 87    | 90    | 100%  | A  | ○学級では立ち止まって元気なあいさつができるようになってきている。<br>●家庭では、できていない児童がいる。  | 児童会のあいさつ運動を引き続き行っていく。教職員も、立ち止まるとのあいさつを率先して行う。                                      | 4   |   |   |  |  |
|          | ○一日一つは他の人に喜んでもらえることができる。                            | 「ありがとう」の本等、取り組みの評価を工夫する。            | 90%                               | 84           | 89    | 99%   | B   | ○「家族のありがとう」カードの取組が功を奏し、一日一善の意識が高まりつつある。  | 今後も「家族のありがとう」カードを活用して、学校と家庭で連携して取組を続ける。  | 4  |   |   |   |  |  |
|          | ○相手を尊重した適切な言葉づかいができる。                               | クラスの係りや委員会活動等で目標を決めて取り組み、認める場をもつ。   | 80%                               | 71           | 82    | 103%  | A   | ○学校では、適切な言葉づかいの意識が高まっている。<br>●家庭での言葉づかいは依然としてよくない。                                   | 相手を意識した適切な言葉づかいについて指導を続ける。学級懇談会等でも実態交流をし、家庭でもしっかりと言葉づかいについて話してもらおう。  | 3  | 1   |   |   |  |  |
| 健やかな体    | 各学年とも県平均を超える種目を80%以上にする。                            | ○握力の結果を伸ばす。                         | うんてい・のぼり棒・逆上がり等の各クラスの目標を決めて取り組む。  | 県平均全学級達成     | 4学級   | 6学級   | 100%  | A  | ○10月の測定と比べて、全学年が県平均を上回り取組の成果が出ている。<br>●県平均を1.0kg以上上回っているのは1学年である。今後も握力向上の取組を続けていく。                                       | 今後も体育の始まる5分間チャレンジを行ったり、休憩時間でより種々の握力がつく遊びを奨励したりして握力の向上を図る。                          | 4   |   |   | 体力づくりを頑張ってもらいたい。<br>日本1の福井県をめざして。  |  |
|          | 基本的な生活習慣に関わる他の目標(テレビ等)も肯定的評価90%以上にする。               | ○基本的な生活習慣(早寝・朝ごはん)を身につける。           | 早寝(低:8時~9時、中高:9時~10時)             | 保護者・児童のアンケート | 90%   | 82    | 80  | 89%  | B  | ○「私の生活カード」の継続実施により、早寝が少しずつ定着してきている。保護者も早寝をさせるための時間の工夫を意識してくださるようになってきた。            | 低学年からの早寝の実践が望ましい。保護者と連携した「私の生活カード」のマンネリ化を防ぐ方法を検討する。 | 4 |   |  |  |
|          | 朝ごはんを毎日食べる。   | 保護者・児童のアンケート                        | 90%                               | 96           | 98    | 109%  | A   | ○全児童がほとんど毎日朝食摂取ができるようになった。朝食の内容についての実態調査や指導が必要である。                                   | 引き続き、朝食の内容についての指導方法を工夫する。更に、「食育の日」の話を給食交流会等を活用して、食の大切さについて児童や保護者にも話をする。  | 4  |   |   |   |  |  |

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。